

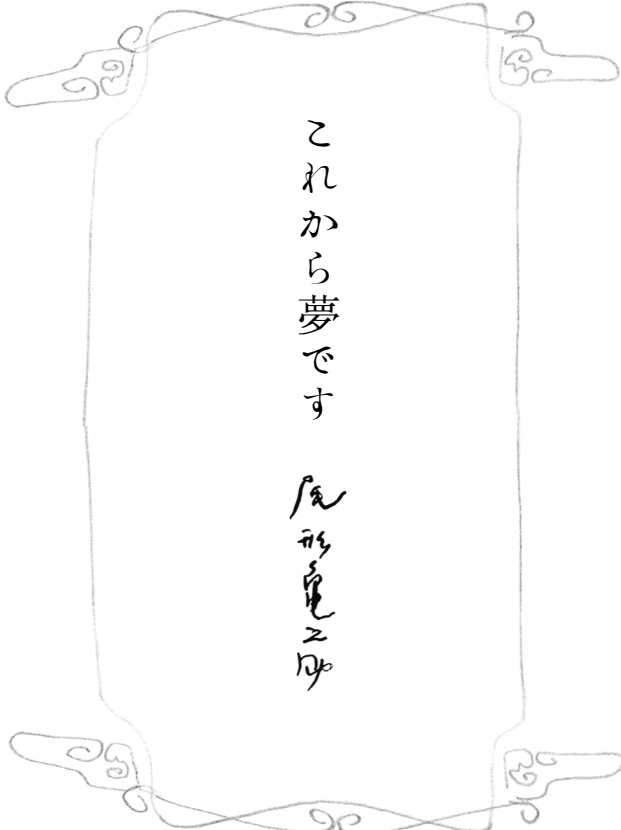
尾形亀之助の夢詩篇

これから夢です



六角文庫

表紙「獭」陶像  
音座マリカ



これから夢です

虎形竜之印

## 尾形亀之助、万年の夢

泉井小太郎

放蕩無頼といつても、この人は何処を転々としているのか案じる必要もない。大概家に居て、床の中でぼんやりしていそうだ。

第三詩集『障子のある家』自序に書かれているように、詩人が「一に全くの住所不定へ」、「それからその次へ」向かったとしても、いつも敷きつばなしの寢床だけはある。もぬけのからではない、夢うつつにぐずつく主人が糞虫のように転がつて。

なるほど、これでは夢の詩が多いのも頷ける。夢と紛う詩もたくさんある。とりとめもなく、とらえどころのないのは夢だけではなかった。生活そのもの、生涯そのもの、尾形亀之助の〈人〉そのものが、夢の位相であり、夢の文法であったようだ。夢とうつつに何の段差もない。

このアンソロジーでは、ひとまず夢と明記してある作品だけを選んだが、他にも幾つか夢に関連したものがありそうだ。

「色ガラスの街」の、

「雨になる朝」の、

「障子のある家」の、

畳の上の、

蒲団の中の、

亀之助の夢。

甲羅のように

蒲団を被って

首だけ出して、

万年の夢に籠もる。

これから夢です——。



尾形龜之助 自画像

目次

とぎれた夢の前に立ちどまる

昼寝が夢を置いていった

昼 床にいる

無題詩

黄色の夢の話

夜の花をもつ少女と私

かなしめる五月

夜の向うに広い海のある夢を見た

夢

受胎

とぎれた夢の前に立ちどまる

月あかりの静かな夜——

私は

とぎれた夢の前に立ちどまっている

×

闇は唇のようにひらけ

白い大きな花が私から少し離れて咲いている

私の立っているところは極く小さい島のもり上った土の上らしい



×

私は鉛のように重たい

×

死んだように静かすぎる

私は

消えてしまいそうな気がする

×

たくさんの  
――

鳥だ

たくさんのねずみだ

一本の煙突だ

×

一人の馬鹿者だ

夢がとぎれている

昼寝が夢を置いていった

原には昼顔が咲いている

原には斜に陽ざしが落ちる

森の中に

目白が鳴いていた

私は

そこらを歩いて帰った

## 昼 床にいる

今日は少し熱があります

ちよつと風邪きみなのでしょう

明るい二階に

昼すぎまで寝て居りました

少女の頬のぬくみは

この床のぬくみに似ているのかしら

私は やわらかいぬくみの中に体をよこたえて

魚のように夢を見ていました

「化粧には松の花粉がよい

百合の花のをしべを少し唇にぬってごらんさい」と

そして

私はちかく坐る少女を夢みてぼんやりしている

ぬるい昼の部屋は窓から明りをすすつて

私のかるい頭痛は静かに額に手をのせる

※「をしべ」に傍点

## 無題詩

昨夜 私はなかなか眠れなかった

そして

湿った蚊帳の中に雨の匂いをかいでいた

夜はラシヤのように厚く

私は自分の寝ているのを見ていた

それからよほど夜おそくなってから

夢で さびしい男に追われていた

## 黄色の夢の話

私の前に立っている人はいったい誰でしょう

チヨツキに黄色のボタンをつけているからあなたの友人でしようか  
それとも

何年か前の私のチヨツキを着ている人でしようか  
それが

影ばかりになって佇んでいるのですが

※「チヨツキ」に傍点

## 夜の花をもつ少女と私

眠い——

夜の花の香りに私はすっかり疲れてしまった

××

これから夢です

もうとうに舞台も出来ている

役者もそろっている

あとはベルさえなれば直ぐにも初まるのです

ベルをならすのは誰れです



×  
×

夜の花をもつ少女の登場で

私は山高をかるくかぶって相手役です

少女は静かに私に歩み寄ります

そして

そつと私の肩に手をかける少女と共に

私は眠り——かけるのです

そして次第に夜の花の数が増えてくる

かなしめる五月

たんぽぽの夢に見とれている

兵隊がラツパを吹いて通った

兵隊もラツパもたんぽぽの花になった

昼

床に顔をふせて眼をつむれば

いたずらに体が大きい

夜の向うに広い海のある夢を見た

私は毎日一人で部屋の中にいた  
そして 一日ずつ日を暮らした

秋は漸くふかく

私は電燈をつけたままでは眠れない日が多くなった

## 夢

眠っている私の胸に妻の手が置いてあつた  
紙のように薄い手であつた

何故私は一人の少女を愛しているのであつたらう

## 受胎

三晩もつづいて

『ねずみが蒲団にのっついていて重い』というので  
私は何もない妻の蒲団の上をシイシイと追った

それで妻は安心して眠るのだ

受胎して

妻はま夜中にねずみの夢を見ているのだ

この小冊子は、「Time 版」これから夢です（二〇〇〇年）を  
復刻したものです。

底本の新字旧仮名を、この本では新字新仮名に改めました。

これから夢です

二〇一七年二月二二日

著者 尾形亀之助

編者 泉井小太郎

発行所 六角文庫

<http://rokkaku.que.jp>

POEMLET F-01



六角文庫